資料編　5　生徒指導（不登校の未然防止に向けて）

新年度の始まりで、気をつけたいこと　小中共通

①基礎基本の力を定着させたり、学習意欲を高めたりするための工夫例

・体験場面を設定する…授業を楽しく、わかりやすくする。
・成就感を高める…努力を認めたり、ほめたりする。
・効果的な宿題チェック等
　…ただできていないことだけを調べるのではなく、少しでも宿題に取り組めるような工夫をする。

②対人関係への配慮

・学級内のグループ編成に配慮する…班編成、係り活動等
・学級開きや学級活動…ゲーム性のある活動等で人間関係づくりを行う。

③家庭での生活状況の把握

・例えば…前担任との連携、家庭訪問や日記等の活用、情報収集等

④遅刻や早退、表情の変化に気をつける。

・例えば…休憩時間や給食中の様子、出授業の様子等もたずねる

⑤２日連続、または、月３日の欠席が一つのサイン！

・養護教諭との連携（組織体制づくり）、出席簿の点検をおろそかにしない

⑥職員間が相談しやすい雰囲気であるか。

・担当任せにしないようにするためには、最も重要な視点である（管理職の配慮も重要）

⑦管理職が不適応を示す子ども一人一人の状況について把握しているか。

新年度の始まりで、気をつけたいこと　中１への対応

小学校とのつながりが新鮮なうちに、情報交換をすることが有効です。気になる生徒については、主任や管理職に相談して、小学校とのつながりを持ちましょう。特に、小学校４～６年次の欠席日数と保健室等登校日数、また、遅刻早退日数をもとにした**「不登校相当」**と**「準不登校」**の生徒を調べると、早期発見、早期対応に結びつくことがあります。

＊「不登校相当」と「準不登校」の換算の方法

区分	小学校４～６年の各学年の状況
不登校相当	欠席日数＋保健室等登校日数＋(遅刻早退日数÷２)＝30日以上
準不登校	欠席日数＋保健室等登校日数＋(遅刻早退日数÷２)＝15日以上30未満

区分	小学校４～６年の３年間を通じての状況
不登校経験あり群	３年間の間に一度でも「不登校相当」に該当した生徒 ３年間とも「準不登校」に該当した生徒
不登校経験なし群	３年間とも不登校相当準不登校のいずれにも該当しなかった生徒
情報なし群	小学校からの情報提供がなかった生徒
中間群	上記以外の生徒

＊分析結果

①中学校１年生時に不登校になった生徒の半数近くは「経験あり」群に分類され、「経験なし」群に分類されるのは、20～25％程度である。
②「経験あり」群の生徒は４月当初から欠席が目立ち始めるのに対して、「経験なし」群の生徒は夏休み明けから欠席が目立ち始める傾向がある。
③「経験あり」群、「経験なし」群どちらの生徒にも欠席の原因として、学力不振が挙げられている。

よりきめの細かい支援体制を組んで、生徒のサインに気づく連携が組める。
○詳しくは、「中１不登校の未然防止に取り組むために」で検索して、
国立教育政策研究所　生徒指導研究センターのホームページを参照